

リプチの森

間知(まち)づくりプロジェクト

[応募者名]勤務先名:株式会社 高田建築設計事務所 勤務先住所:〒940-1105 新潟県長岡市摂田屋5-6-22
連絡先(勤務先) 本社/TEL.0258-36-1230(代) FAX.0258-35-8185

■ 地域性への配慮事項

米百表の地、長岡市の南に醸造業のまち摂田屋がある。歴史あるこの地で新しいまちづくりをするにあたり

①人々の住まう居場所は緑豊かな森づくりでもある。「再び(リ)小さな(ブチ)森をつくろう!」を合言葉に「リプチの森」と当プロジェクトは命名された。

②土地の持つDNAの遺伝子を見直し、新しいまちづくりにその記憶を埋め込みデザイン化する。

③自然との共生はもとより、地域交流スペースを併設した高齢者施設を作ることにより老若男女が共生するまちづくりを目指した。

私達のまちづくりは「間知(まち)づくり」と呼称し、人々と自然と歴史が共生する新しいまちづくりプロジェクトである。

■ 作品の概要

当敷地は、米百表で有名になった長岡市の南に位置する。江戸と佐渡を結ぶ旧三国街道が通る歴史あるまちで名前を摂田屋という。地名の由来は、接待屋からきているとも言われている。

山古志の山々からの湧き水を利用した醸造業で栄えた摂田屋は、醤油屋の板塀や酒蔵やサフラン酒の鍍絵が並ぶ、歴史が呼吸している情緒豊かなまちである。この地で新しいまちづくりをするにあたり、人々と自然と歴史が共生するまちづくりを目指した。

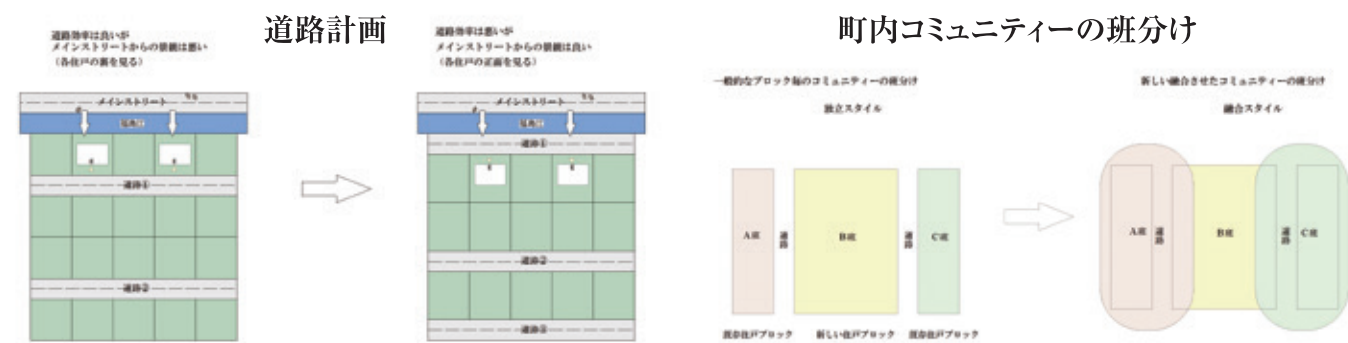
■ 作品の特長

人々と自然と歴史が共生し、サスティナブルな新しいまちづくり

現代は、インターネット仮想空間が肥大化している住環境にある。バーチャルの時代感覚が人間の感覚や関係を変えるとさえいわれる中で、みんなが集まって自分たちの手で緑の小さな森をつくるまちづくりが大切だと考える。人々と自然と歴史が共生し、サスティナブルな新しいまちづくりを目指した。「再び(リ)小さな(ブチ)森をつくろう!」を合言葉に「リプチの森」と命名されたまちづくりは、単に土地分譲をするのではなく思想を共有できる人々が集まる居場所をつくることをコンセプトにした。

古い町並みと新しく作られる町並みをどのように共棲するか?という課題には、

- ・地区計画:都市計画における用途制限を抛り厳しく制限する。
- ・住宅専用分譲地ではなく、店舗・福祉施設etc.を混在させる。
- ・コミュニティ:新しいブロックが隣接既存ブロックと融合思考していく仕掛けづくり。
- ・古い町の持つ記憶をデザインサーベイし、新しい町にデフォルメしながら埋め込んでゆく。



- 1、自然との共生:居心地の良いまちづくり=1/fの揺れをつくる。住民参加型のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と雪のイルミネーション)
- 2、歴史との共生:土地の持つ記憶をデザインサーベイし、新しいまちづくりにその記憶を埋め込みデザイン化する。
- 3、人々の共生:老若男女が混在するまちづくりを目指し、住民に開放する地域交流スペースを持つ地域密着型介護施設を併設する。

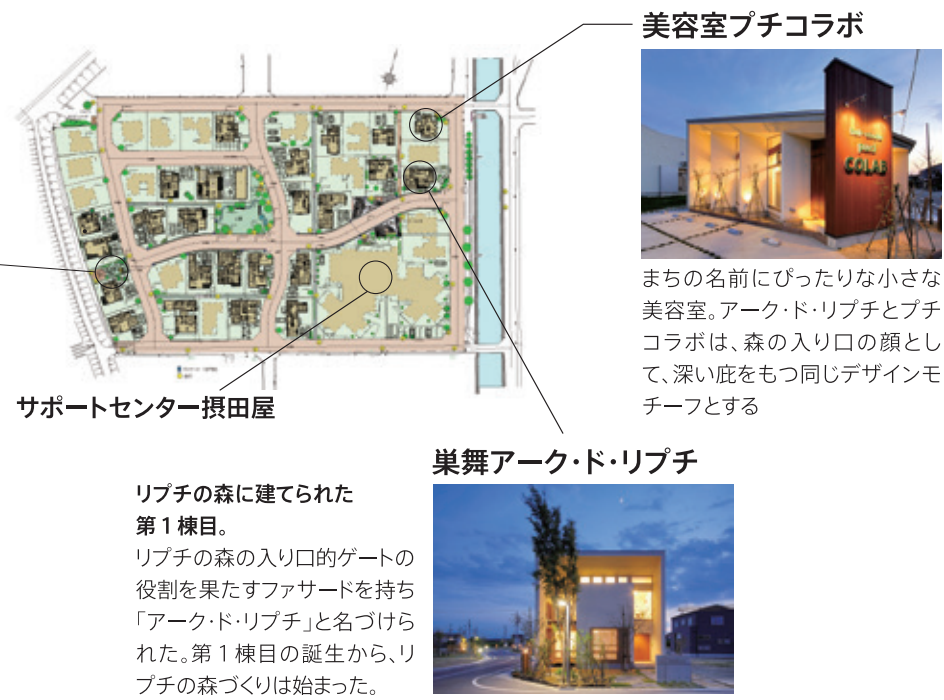


リプチの森の建築群の一例

展示場
リプチの森のたまご



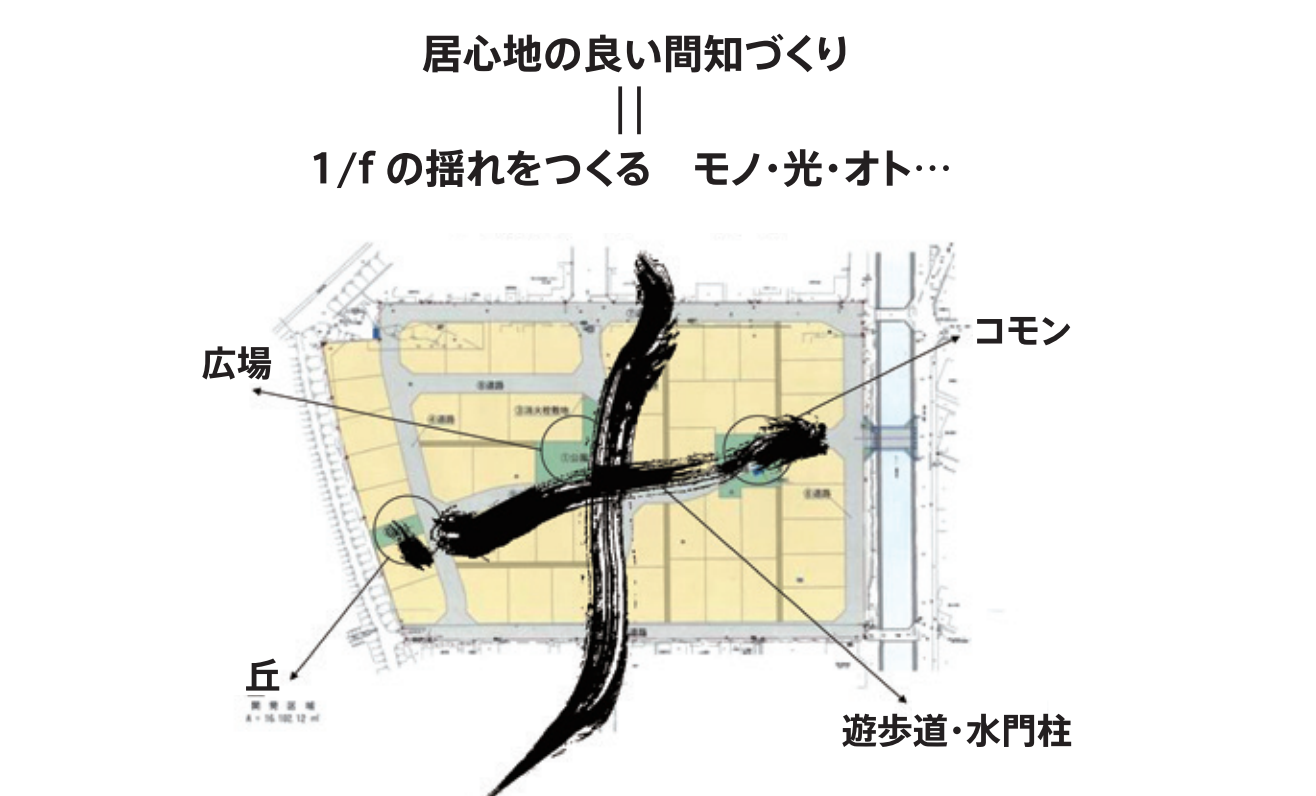
200年住宅モデル展示場。
太陽光発電パネルと集熱パネルを屋根に搭載し、エネルギーの自給自足を目指した。これからの住まいづくりの提案型住宅です。



1.自然との共生

居心地の良いまちづくり=1/fの揺れをつくる。
住民参加型のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と雪のイルミネーション)

人々と自然と歴史が共生し、サスティナブルな新しいまちづくり



リプチの森は「再び(リ)小さな(ブチ)森をつくろう」が合言葉

人々の住まう居場所は緑豊かな森づくりでもある。「再び(リ)小さな(ブチ)森をつくろう!」を合言葉に「リプチの森」と命名されたまちづくりは出発した。
単に土地分譲をするのではなく思想を共有できる人々が集まる居場所をつくることをコンセプトにした。
・五感に語りかける1/fの揺れ:モノ・光・音...カーブする道路、木漏れ日、水音
・歩行者に優しい:道路をカーブさせることで車のスピードを抑える。
・安全・安心:境界に塀で死角を作らない。ガーデン灯で明るい町並み
・行き詰まらない道路:歩く視線は丘や、コモンや、公園にシースルーする。



2.歴史との共生

土地の持つ記憶をデザインサーベイし、新しいまちづくりにその記憶を埋め込みデザイン化する

カーブを描く道、水門柱、はさぎなど土地の持つ記憶をデザイン

- 1.街道のヒューマンスケールを残すゆやかにカーブを描く道
- 2.コモンスペースは、はさぎコラムのあるまちのたまりば
- 3.幅1.5mの石畳の遊歩道
- 4.水と親しむ水門柱
- 5.実なる木 リプチの丘
- 6.リプチの森の中心にある公園のフェンスを除き市営公園から自主自営公園へ



歴史を継承して文化を育む:醸造の町・アートの町

1. 歴史ある町:醸造のまち摂田屋:水源豊かな町(東山の豊かな伏流水)
2. 活躍した芸術家達:鍍絵作家左官・川上伊吉と日本画家の川上四郎画伯
3. デザインサーベイ:近隣の町並みに見られる風景をピックアップ。



3.人々の共生

老若男女が混在するまちづくりを目指し、住民に開放する地域交流スペースを持つ地域密着型介護施設を併設する

地域交流スペースを併設した高齢者施設は、子供たちとの交流の場

分譲地は住宅専用ではなく、店舗・福祉施設etc.を混在させ、暮らしが息づくまちに。特に、小規模多機能型施設を併設した地域密着型介護施設は住まう人に安心感を与える



長岡市摂田屋にあるリプチの森に、サテライト特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護施設・地域交流室を兼ね備えた『サポートセンター摂田屋』(通称:ブチリプチ)が2010年に完成した。
全体計画は、街並みに合うように、小さな家々が集まった形。施設には地域の方と語り合うことのできるカフェテラス、子供達とふれあうキッズスペースもあり、様々な世代交流の場所として活用することができ、隣接してグループホーム(認知症対応型共同生活介護)とユニバーサルハイツ(在宅支援型住宅)が2011年に完成した。

ちいき交流の場

小規模多機能室と地域交流室をオープンすることで、町内会行事やお茶会など多目的な集まりに利用され、地域の方々との世代をこえた交流の場となる

